

E1, E20およびE30A用エミュレータデバッグ ご使用上のお願い

E1, E20およびE30A用エミュレータデバッグの使用上の注意事項を連絡します。

- 外部フラッシュへのダウンロードに関する注意事項

1. 該当製品

- CubeSuite+ V.1.01.00に含まれる RX用E1/E20エミュレータデバッグ
- RX E1/E20エミュレータデバッグ V.1.00.00 ~ V.1.02.00
(High-performance Embedded Workshop用)
- R32C E30Aエミュレータデバッグ V.1.02.00
(High-performance Embedded Workshop用)

2. 内容

- (1) 外部フラッシュ定義エディタで登録する自動実行スクリプトの
コマンド記述が、以下のいずれかに該当する場合、外部フラッシュへの
ダウンロード時にエミュレータデバッグが異常終了する場合があります。
 - MF (MEMORY_FILL) コマンドのパラメータ間に半角スペースまたはタブが
2つ以上ある
 - MFコマンドのパラメータの先頭アドレス、終了アドレス、および
fillデータが省略されている
- (2) 外部フラッシュ定義エディタで登録する自動実行スクリプトの
コマンド記述が、以下に該当する場合、外部フラッシュへの
ダウンロードが終了せず、エミュレータデバッグを終了できません。
 - MFコマンドのパラメータの先頭アドレスが終了アドレスより大きい

外部フラッシュ定義エディタで登録する自動実行スクリプトの種類は
以下のとおりです。

- ダウンロード前実行スクリプト
- ダウンロード後実行スクリプト
- 外部RAM 使用前実行スクリプト
- 外部RAM 使用后実行スクリプト

上記のスクリプトでサポートするコマンド形式 は以下のとおりです。

MF <start> <end> <data> [<mode>]

start : 先頭アドレス

end : 終了アドレス

data : fill データ

mode : [BYTE]、[WORD]、または[LONG]、省略時は[BYTE]

3. 回避策

外部フラッシュ定義エディタで登録する自動実行スクリプトのコマンドは、以下のすべての条件があてはまるように記述してください。

- (1) パラメータの区切りは半角スペース1つまたはタブ1つにする。
- (2) 先頭アドレス、終了アドレスおよびfillデータは省略しない。
- (3) 先頭アドレスは終了アドレスより大きくなるようにする。

4. 恒久対策

- CubeSuite+に含まれるRX用E1/E20エミュレータデバugga
V.1.02.00で改修します。
- RX E1/E20エミュレータデバugga(High-performance Embedded Workshop用)
別途、改修時期をツールニュースで案内します。
- R32C E30Aエミュレータデバugga
改修予定はありません。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。